経済・金融フラッシュ

# 【1月米個人所得・消費支出】

## 個人所得は前月比+0.6%、消費支出は+0.2%と所得は市場予想を上回る一方、消費は下回る

経済研究部　主任研究員　窪谷　浩
TEL:03-3512-1824　E-mail: kubotani@nli-research.co.jp

### 1. 結果の概要:個人所得は市場予想を上回る一方、個人消費は市場予想を下回る

2月28日、米商務省の経済分析局（ＢＥＡ）は1月の個人所得・消費支出統計を公表した。個人所得（名目値）は前月比+0.6%（前月改定値：+0.1%）となり、+0.2%から下方修正された前月を上回ったほか、市場予想（Bloomberg集計の中央値、以下同様）の+0.4%も上回った（図表1)。個人消費支出は前月比+0.2%（前月改定値：+0.4%）と、こちらは+0.3%から上方修正された前月、市場予想（+0.3%）を下回った。また、価格変動の影響を除いた実質個人消費支出（前月比）は+0.1%（前月：+0.1%）と、こちらは前月に一致した一方、市場予想（+0.2%）は下回った（図表5)。貯蓄率[1]は7.9%（前月：7.5%）と、前月から+0.4%ポイント上昇した。

価格指数は、総合指数が前月比+0.1%（前月：+0.3%）と前月、市場予想（+0.2%）を下回った。また、変動の大きい食料品・エネルギーを除いたコア指数も前月比+0.1%（前月：+0.2%）と前月、市場予想（+0.2%）を下回った（図表6)。前年同月比では、総合指数が+1.7%（前月値改定値：+1.5%）と+1.6%から下方修正された前月を上回った一方、市場予想（+1.8%）は下回った。コア指数も+1.6%（前月値改訂値：+1.5%）とこちらも+1.6%から下方修正された前月を上回った一方、市場予想（+1.7%）は下回った（図表7)。

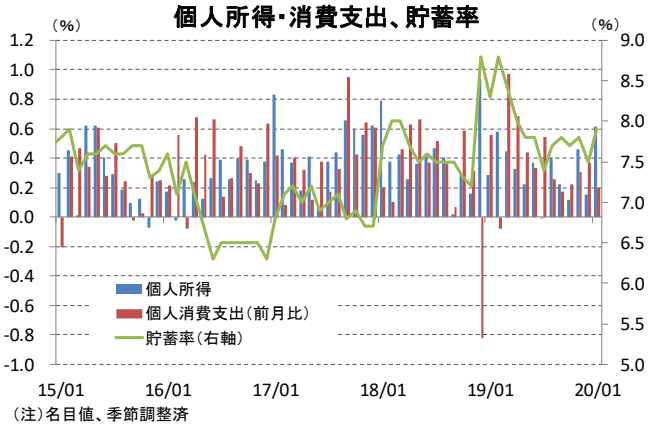
### 2. 結果の評価:個人所得は堅調も、個人消費は冴えない結果

個人所得（前月比）が19年2月（+0.6%）以来、可処分所得(同)では18年12月(+1.0%)以来の水準に加速した一方、個人消費（同）は19年10月（+0.2%）以来の水準に低下した。

この結果、貯蓄率が7.9%と19年4月（8.0%）以来の水準に上昇するなど、1月は所得対比で消費が冴えない状況となった。

一方、2月以降世界的に新型コロナウイルスの感染が拡大している。米国でもサービス業の企業景況感悪化や、株式市場の大幅下落

（図表1）




(注)名目値、季節調整済
(資料)BEAよりニッセイ基礎研究所作成

[1] 可処分所得に対する貯蓄（可処分所得－個人支出）の比率。


| Copyright ©2020 NLI Research Institute All rights reserved

がみられており、消費マインドの悪化が懸念される。また、感染が長期化することで物流が滞ることも懸念されており、新型コロナウイルスの感染拡大が消費に与える影響が注目される。

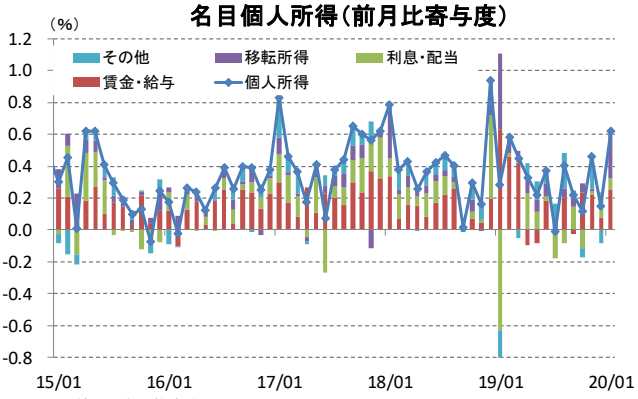
ＦＲＢが物価指標としているＰＣＥ価格指数（前年同月比）は、前月から小幅ながら伸びが加速したものの、依然として 18 年 11 月以降は物価目標の 2%を下回る状況が持続している。また、物価の基調を示すコア指数は、19 年 2 月以降概ね+1.5%～+1.7%のレンジに収まっており、インフレの加速はみられない。

## 3. 所得動向：賃金・給与や移転所得の伸びが加速

個人所得の内訳をみると、賃金・給与が前月比+0.5%（前月：+0.2%）と 19 年 10 月（+0.5%）以来の伸びに加速した（図表 2）。また、政府による社会保障関連の補助金などの移転所得も消費者物価指数の年次改訂の影響に伴い+1.6%（前月：横ばい）と前月から伸びが加速した。さらに、自営業者所得も農業部門の所得は小幅に減少したものの、それ以外の業種で増加した結果、+0.6%（前月：▲1.4%）と前月からプラスに転じた。一方、利息・配当収入は+0.4%（前月：+1.0%）と前月から伸びが鈍化した。

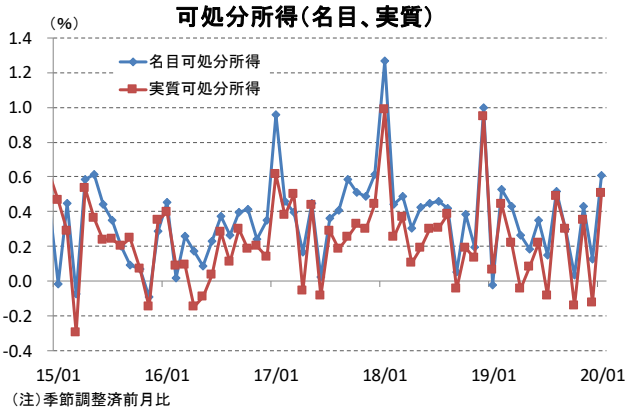
個人所得から税負担などを除いた可処分所得（前月比）は、1 月が+0.6%（前月：+0.1%）と前月から伸びが加速した（図表 3）。さらに、価格変動の影響を除いた実質ベースも+0.5%（前月：▲0.1%）と前月からプラスに転じ、19 年 8 月（+0.5%）以来の伸びとなった。

（図表 2）




（注）名目値、季節調整済前月比
（資料）BEAよりニッセイ基礎研究所作成

（図表 3）




（注）季節調整済前月比
（資料）BEAよりニッセイ基礎研究所作成

## 4. 消費動向：自動車関連が増加も、非耐久財消費が減少

1 月の名目個人消費（前月比）は、財消費が+0.1%（前月：+0.2%）、サービス消費が+0.3%（前月：+0.4%）と、小幅ながらいずれも前月から伸びが鈍化した（図表 4）。

財消費では、耐久財が+0.6%（前月：▲0.4%）と前月からプラスに転じた一方、非耐久財が▲0.2%（前月：+0.6%）と前月からマイナスに転じ財消費の足を引っ張った。

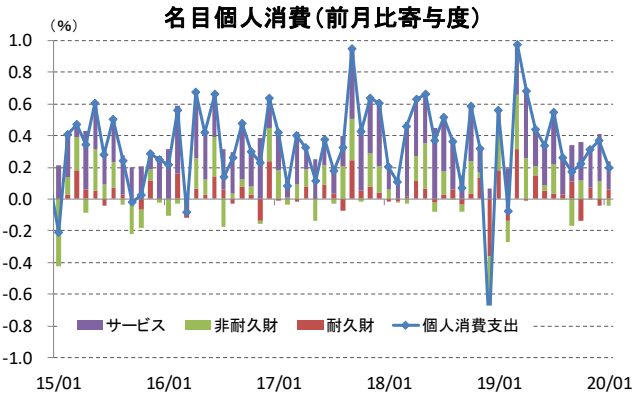
耐久財では、娯楽財・スポーツカーが+0.3%（前月：▲1.0%）、家具・家電が+0.5%（前月：▲0.6%）、自動車・自動車部品が+1.3%（前月：▲0.2%）と、いずれも前月からプラスに転じた。とくに、自動車・自動車部品で顕著と増加となった。

 | Copyright ©2020 NLI Research Institute All rights reserved

非耐久財では、食料・飲料が横ばい（前月：横ばい）となったものの、衣料・靴が▲1.7%（前月：+0.8%）、ガソリン・エネルギーが▲1.6%（前月：+1.5%）と前月からマイナスに転じた。

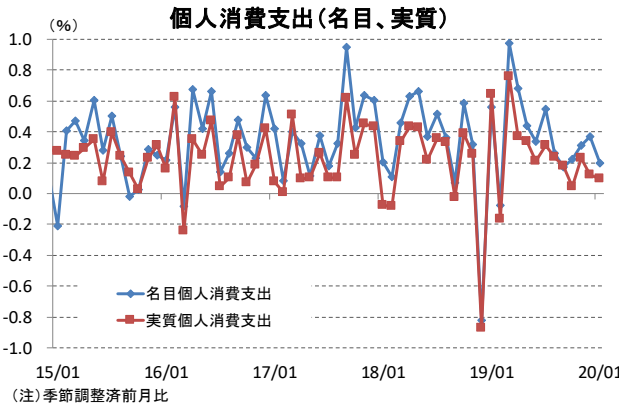
サービス消費は、外食・宿泊が+0.9%（前月：+1.2%）、娯楽サービスも+0.7%（前月：+0.8%）と前月に続いて好調を維持した一方、住宅・公共料金が横ばい（前月：横ばい）となったほか、交通サービスが▲0.9%（前月：+0.9%）と前月からマイナスに転じた。

（図表 4）




（注）名目値、季節調整済前月比
（資料）BEAよりニッセイ基礎研究所作成

（図表 5）



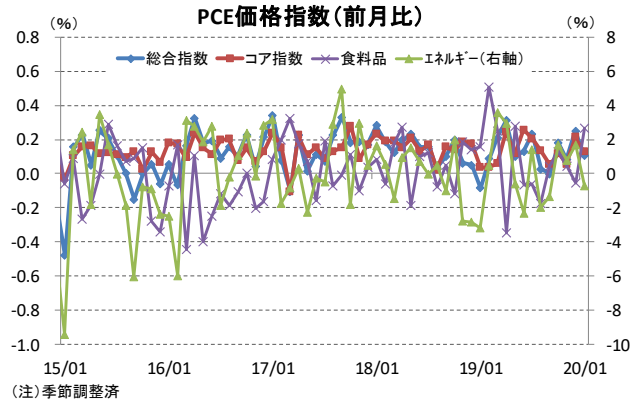

（注）季節調整済前月比
（資料）BEAよりニッセイ基礎研究所作成

## 5. 価格指数：エネルギー価格が前月比で４ヵ月ぶりに物価を押し下げ

価格指数（前月比）の内訳をみると、エネルギー価格指数が▲0.7%（前月：+1.7%）と４ヵ月ぶりに物価押し下げに転じた（図表 6）。一方、食料品価格指数は+0.3%（前月：▲0.1%）と僅かながらプラスに転じた。

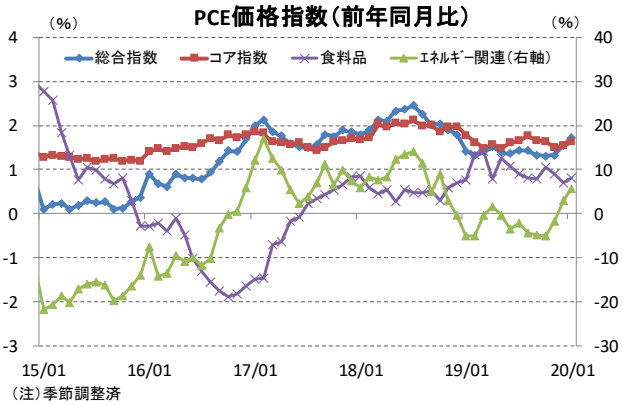
前年同月比では、エネルギー価格指数が+5.6%（前月：+3.0%）とこちらは２ヵ月連続でプラスとなった（図表 7）。一方、食料品価格指数は+0.8%（前月：+0.7%）とこちらは 17 年７月以来 31 ヵ月連続のプラスとなった。

（図表 6）




（注）季節調整済
（資料）BEAよりニッセイ基礎研究所作成

（図表 7）




（注）季節調整済
（資料）BEAよりニッセイ基礎研究所作成

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。